

東日本大震災より一周年

東日本大震災より一周年の三月となりました。昨年は大震災・大津波を始め、熊野・十津川の水害、霧島連山の噴火、そして昨年・本年と続く雪害など、また世界的にもタイの大洪水をはじめとして、各国の地震、竜巻など、まことに災害の多い年でした。特に原子力発電所の事故は現在もお収束の見込が立たず、長期にわたる影響が甚大で、まことに困難な状況となっております。

東日本大震災をはじめ各地の災害で被災された皆様、今もお余震が続く中、厳しい避難生活や仮設住宅暮らしを余儀なくされている皆様にあらためてお見舞いを申し上げ、亡くなられた方々の御霊のご平安をお祈り申し上げます。そして何よりも、一日も早い生活の安定とそれぞれの地域の復興を心よりお祈り申し上げます。

多くの災害が繰り返されてきた国土に生活している私たちとしては、今回の災害を忘れることなく、これを教訓に、いつ起るともされない危機に備えていかなければなりません。

第十一回梅花茶会

近江神宮敬神婦人会の主催で毎年三月に開催されている梅花茶会は、平成十四年、アフガニスタン難民の義捐金募金の意味も込めたチャリティ行事として始められたものでした。本年度第十一回となり、東日本大震災一周年近い三月八日（木）に開催されました。昨年はちょうど大震災の起った当

近江神宮日供神饌講  
新版第十二号  
平成二十四年三月十五日



梅花茶会に先立つ献茶

日で、会の終了近いころに大地震が起ったことが閉会に知らされた次第でした。

大震災一周年間近い時期に当る本年は、お茶会に先立って最初のお茶を神前に奉納し、東北地方の復興祈願祭を行いました。本年も寒い日が続き、いまだ梅の開花には至っていませんでしたが、暖かい好天に恵まれ、赤みを増した蕾はまもなく開花という雰囲気を漂わせていました。

「ちはやふる・大津」キャンペーン

競技かるたを題材にした漫画「ちはやふる」が、雑誌連載開始より四年となり、昨年からテレビアニメとしても放映されるようになりました。「ちはやふる」では、近江神宮や近江勸学館などが

実名で登場し、描かれた場面も境内や大津市内の情景など、実際の様子に忠実に描かれた場面が多数登場します。

近年、多くの漫画でリアルな町の風景や建物が描かれており、漫画やアニメに描かれた場所を訪れるのを「聖地巡礼」と称してマニ



歓迎看板

アの間ではブームのようになっていきます。各地でそれに関連した町おこしや観光振興・アニメツーリズムがクローズアップされるようになりました。大津市でも「ちはやふる」の人気を期にこれを採り



梅花茶会

上げて観光振興を図ることになり、二月二十二日、びわ湖大津観光協会を中心に「ちはやふる・大津」キャンペーン実行委員会が発足し、活動を開始することになりました。手始めに、歓迎看板が三月中に近江神宮境内のほか、大津・大津京・近江神宮前各駅に掲げられることになっています。

また、大津の観光キャラクター「おおつ光ルくん」のマスクットが、頭上にかかるた札を載せて境内の研修宿泊集会施設・近江勸学館の玄関に置かれ、来館者を迎えています。びわ湖大津観光協会により、昨年末から預けられているものです。



## 東日本大震災と百人一首の歌

東日本大震災を期に注目されるようになった百人一首の和歌があります。

契りきなかたみに袖をしぼりつつ末の松山波越さしとは

清原元輔

「お互いに涙を流しながら、あんなに誓ったのに。末の松山を波が越えることがないように、決して心変わりはいらないと。それなのに、あなたは・・・」ということですが、末の松山は宮城県仙台近郊の歌枕で、「末の松山を波が越す」とは絶対にありえないことのとたとえに用いられてきました。従来は海岸の普通の高波のことと考えられていたのですが、大津波が来た時も末の松山を越えなかったことに基づいているといわれるようになってきました。

この歌は「君をおきてあだし心わが持たば末の松山波も越えなん」という『古今集』所載の東国の歌を本歌としたものです。『古今集』が編まれたのは、昨年の大震災並みの大津波が襲った貞観地

震の四十年ほど後のことで、東北地方ではいまだ大津波の記憶は残っていたと思われ、これを踏えた歌だということです。

そして末の松山の伝承地として有力なのが多賀城市にある寺院の裏山で、今回の大津波は海岸から二キロも入ったその周囲まで到達したが、丘陵地になっている松山には達せず、近隣の多くの人が避難して助かったということです。しかも多賀城には、大津波のときに末の松山に逃げ一命をとりとめたとする民話があるとのこと。

## 『開運暦』訂正

前号に続いてまたも平成二十四年『開運暦』の訂正です。三十八ページ「平成二十五年七曜・六曜・祝日表」のうち、七月二十二日が祝日の印になっているのは七月十五日（海の日）の誤りです。海の日は毎年七月の第三月曜日と決められていますので、七月十五日から二十一日の間の月曜日となります。本年の暦は誤りが多くて申し訳ありません。お詫び申し上げ訂正させていただきます。

## 春から初夏の祭典・行事

|        |       |                  |
|--------|-------|------------------|
| 三月十七日  | 午前十一時 | 祈年祭              |
| 四月二十日  | 午前十時  | 例祭 勅使参向          |
| 四月二十四日 | 午後二時  | 近江まつり子供みこし渡御     |
| 五月十七日  | 午前十一時 | 崇福寺鎮魂供養祭（崇福寺跡にて） |
| 六月九日   | 午前十時  | 献茶祭              |
| 六月十日   | 午前十一時 | 漏刻祭              |
| 六月二十七日 | 午前十一時 | 献菓献煎茶祭           |
| 六月三十日  | 午前十一時 | 日供神饌講講社大祭 饗宴祭    |
| 六月三十日  | 午後四時  | 大祓式              |

講社通信は近江神宮ホームページでカラーで見られます。

<http://omni.jingu.org/>